

# 平成28年度 学校自己評価システムシート

本庄東高等学校附属中学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 一貫校である本校の特色を生かした「自らが考え、判断できる、知と心を備えた聡明な人材」の育成
重点目標	1. 知的好奇心を育て、学習習慣を確立し、確かな学力を身につけさせる。 2. 幅広い視野を持ち、生徒一人一人が、自ら職業観を育てる。 3. 礼儀やマナーを大切にし、自他を尊重できる人間関係を促進する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

番号	年度目標				中間評価 (3月31日現在)		
	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己実現に向けて、確かな学力を身につけさせ、次のステージ（高校課程）への橋渡しをすることができているか検証踏まえて、各教科指導を改善していくこと。</li> <li>生徒自身に、学習状況の現状を如何に把握させ、改善に向けての意欲向上と自ら行動に移せるような本校独自のチェックノート作りが課題である。そのためには、記入時間がかからないよう、かつ自分の課題が一目でわかるような様式の模索が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上に向けての取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身の学習習慣の見直しを、機会を捉えて、適切に指導するように努めること。</li> <li>生徒の学習状況を担任・教科担当者・保護者ができるだけ、チェックノートを通して、把握し合うようにすること。</li> <li>主要教科の適正な進度と、生徒の理解度を向上させるための活動の改善を図るよう努めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒との面談において、学習習慣の課題を意識して、改善に向けての話し合いがスムーズにできているか。</li> <li>チェックノートの利用が、適切に行われているかどうかを担任・副担任と協力して把握する。</li> <li>定期考査の結果や学期ごとの成績がどうであるのか、推移を見ながら適切な方策を発見していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだまだ、チェックノートの活用が十分ではないようである。生徒自身が、何をどう変えていくかを認識させるには、チェックノートの記入の仕方を簡便にし、短時間で処理できるように様式を改善し続ける必要がある。チェックノートを作るのが目的ではなく、あくまで生徒自身が課題に気づくことが大切である。</li> <li>各教科における思考力・応用力をつけるための工夫を、センター試験に変わる入試対策に向けて、授業改善の取り組みが徐々に進んできた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年からの新たな大学入試に向けての準備を本格的に始動しなければいけない時期に来ている。手始めに、2年生から、新テスト対策模試の導入をすること。</li> <li>調べ学習・グループ発表など今まで以上に重視し、生徒がより主体的に、能動的に、積極的に取り組んでいけるような場面を増やすこと。授業は勿論のこと、様々なコンクールなどへの参加を促し、知的好奇心を高めるようにしていくこと。</li> <li>学力の2極分化に対する授業体制の見直しが必要である。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の目的・目標を踏まえ、中学3年間での流れを意識して、各学年ごとの目標設定を明確にしていく。</li> <li>民間企業による出前授業をさらに有効活用できるように情報の収集を行い、生徒により多くの業種を体験できるようにしていく。</li> <li>学校全体での出前授業は、学校行事の関係で、年2回、1・2学期で実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業種の理解を深める取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生では企業の出前授業を活用し、世の中にはどのような仕事・業種があるのかを知る。</li> <li>2年生では企業訪問を行い、実際の仕事現場を見たり、従業員の話を聞いたりすることで、自身の進路目標を明確化する。</li> <li>3年生では大学訪問を通して、進路目標達成のための具体的な進路プランを考えていく。</li> <li>全学年を通して、文化祭の際に職業調べ学習発表を行い、キャリア教育についてより理解を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの成果を出すために、事前指導と事後指導が適切になされたかどうか。</li> <li>生徒が目的を十分理解して取り組むことができたかどうか。</li> <li>積極的で、かつ主体的に取り組むことができたかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年ともに、文化祭での職業調べや大学の学問研究発表を成功させ、キャリア教育について理解が深まっている様子が見られた。</li> <li>学年が上がるごとに、発表に対するスキルの向上も見られ、実りあるものとなっていた。</li> <li>出前授業は1回実施（歯科医師）し、職業理解に繋がった。残り1回の内容や人選を検討中である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業選定に関しては学年間で引継ぎを十分に行うこと。</li> <li>出前授業の依頼先や回数について検討をすべきである。</li> <li>出前授業・企業訪問を依頼する企業に関しては、早めのアプローチをし、生徒にとってよりよい情報提供・体験ができるように工夫をすること。</li> <li>新入試に向けての対策、身に付けた力の養成を実行すること。</li> <li>社会に求められる人材とは何か。生徒ひとりひとり考えさせる場面をいかに増やしていくかが、今後の全学年で取り組むべき課題である。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内外を問わず、さらなるモラルやマナーの向上を目指し、周囲からも信頼される生徒を育てる。</li> <li>学校行事を通して、クラス内の団結力や協力の大切さや感性豊かな生徒を育てる。</li> <li>危険回避がしっかりできる判断力のある生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼される生徒の育成</li> <li>人間性豊かな生徒の育成</li> <li>判断力のある生徒の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に、生徒の現状を把握するために、教師自ら、スクールバスや駅での巡視をする。</li> <li>必要に応じて、学年集会や全校集会を実施する。</li> <li>危険回避できるように、外部講師による注意喚起・啓発をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に巡視することで、生徒のようすを把握し、正しく行動がなされているか。</li> <li>本校の生徒である責任・義務の大切さや先輩・後輩の関係がしっかりできているかどうか。</li> <li>交通ルール等の社会的なルール・マナーがしっかり守れているかどうか。</li> <li>本校の教師以外でも、注意された場合、注意を素直に聞き入れしっかりとった態度がとれるかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の生徒だけでなく、様々な地域から通学しているため、すべての現状把握が難しい状況ではあるが、生徒指導部が中心となって、副担任の先生の協力を得ながら取り組むことができた。</li> <li>校外研修・キャリア学習や体育祭等で、人に対する思いやり・協力の大切さやゆずり合うことを学ぶことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の目の届かない場所では、頼りとなるのは、上級生である。上級生が手本となり、リーダーシップを発揮し、後輩の面倒をみられるように指導していくことが重要である。</li> <li>危険回避が生徒一人一人がしっかりできるように定期的な注意喚起が必要である。</li> <li>校外でのモラル向上及び改善に向けた努力を学校全体で取り組むこと。</li> </ul>